

# 海 谷 駒 ヶ 岳 山 行 報 告

y.h.c. 笠 原 正 雄

目的地	海谷駒ヶ岳（発電所コースピストン）	期 日	平成 11 年 11 月 3 日（祝・水）
山人	笠原正雄・笠原澄子・斉藤昭英・斉藤芳子・小林紀治・小林幸子		

地 点 名	(着)～(発)	天候	記 事
与 板	午前 5:00 発		長岡 I C 手前コンビニに立ち寄る。高速道経由。
名立谷浜 S A		晴	朝食休憩。あまりの天気の良いから雨飾山へ行くかと相談まとまる。所が糸魚川近くになると、向こうの山の頂きが冠雪している。やはり当初計画通り駒ヶ岳へいくこととした。 R 148 から雨飾温泉の標識に従い左折。正面の雨飾山の上部は白い。更に雨上がりの岩場の通過を嫌って、予定の大神堂コースを変更し地図上で岩場のやや少ない海谷溪谷側からのコースを登ることとした。
糸魚川 I C		"	
林道途中路肩	7:50 発	"	上野集落を過ぎ海谷溪谷を示す標識で右折。出だし工事中で悪路であったが通過すれば舗装。海谷溪谷・駒ヶ岳登山口分岐約 200m(歩き 5 分)手前で工事コンボがとうせんば。路肩に停め支度を整え歩き始める。
発電所水槽小屋	8:11	"	工事コンボが無ければここまで車で入れる。伐採林地を経て涸れ沢の登り。
鉄 は し ご	8:33～8:40 (休み)	"	約 4 m のはしご。補助ロープ有り。この後ロープに頼る急登の連続。途中 1 箇所腕力のいる短い岩場のロープ直登。右手に沢水が得られる。
天 狗 の 庭	9:21～9:28	"	7～8 人程度がやっとの休憩場。空は晴れているが、北斜面のため太陽はあたらない。糸魚川の街と海が一望。 この後更に急登。枝をつかみながら、または所々にあるロープにつかまり登る。倒木にナメコ有り。澄子ナメコ採りにはまる。途中水が得られる。みぞれが少しのこっていた。但し、下る時には消えていた。 頂上 20 分程手前で急登から開放されて、灌木の緩い登りとなる。
山 頂	10:38～12:08	" 曇	大神堂コースと合わせてすぐ頂上。前方左に焼山、右に雨飾山。いずれも冠雪、ピークはガスで見えず。薄日が差し風も無く比較的暖かい。 鬼ヶ面への道は出だしはしっかりしている。 我々が頂上に着いた時は先客無し、大広間設営。頂上で都合 10 人位が上がって来た程度であった。ゆっくり昼食を摂り下る。その頃には曇となる。
天 狗 の 庭	1:06～1:12	曇	下山になってようやく写真を撮るゆとりが出た。太陽があたり見ごろの紅葉がさらにきれいであろう。
鉄 は し ご	1:50～1:55	"	涸れ沢の石も少し乾いてきて、登りよりも滑らない。
発電所水槽小屋	2:11	"	ここからの林道の下りは紅葉もきれいで、気分が良い。
林道途中路肩	2:30	"	溪谷散歩者の車か、朝より路肩駐車が増えていた。祝日にもかかわらず、林道工事が行われていた。 往路をたどる。途中車を止め、駒ヶ岳を振り返る。ピークはガス。
白馬大仏温泉	4:15 発	"	R 148 を平岩まで逆行し、入浴。
与板みよしの	6:15 着	"	西山 I C から開通したばかりの阿弥陀瀬トンネルを通り帰板。

今年の 7 月頃、星氏よりこの山の名前を聞いて、マークしていた。また、先月光明山で新潟からの女性から話を聞いて、行きたくなった。星氏と同行出来ればと思っていたが、不都合とのことで斉藤夫妻と行く計画を立てた。また、近日になって小林夫妻も加わる事となって、より楽しい山行となった。登高時間は短い、急登の連続で、枝やロープに頼る山で腕の疲れる山行であった。大神堂コースもやや長いものの似たようだと地元入山者から聞いた。いつかそちらも行ってみたい。頂上直前の緩い登りを除けば退屈しない山であった。

